

Ⅲ. 人間科学科目（留学生）

留学生科目概要

1. 目的

留学生が速やかに大学の教育環境に適応し、日本社会に対する理解を深めることができるように、日本語と日本事情の教育を行う。

具体的な目標としては、

- 1) 日本社会・文化について大学生として知っておくことが望ましい知識を獲得する。
- 2) 大学生として必要な日本語の語彙や文法、読解力、聴解力を獲得する。
- 3) 日本語での情報を正確に理解し、自分なりの考えを論理的に表現する力を養う。
- 4) 自分なりの日本語学習の習慣を確立し、専門の学習に備える。

2. 日本語と日本事情の科目の履修について

日本語AⅠ、AⅡ、BⅠ、BⅡは1年次に、日本語CⅠ、CⅡは1年次または2年次に履修する。これらの単位は外国語系科目に振り替えることができる。

日本事情A、日本事情Bは1年次または2年次に履修する。これらの単位は人文社会系科目に振り替えることができる。

上記の科目の他に1年次から3年次の学生を対象にした日本事情C、日本事情Dが金曜日に開講され、これらの単位を取得して人文社会系科目に振り替えることができる。時間割を参照して、履修を希望する者は最初の講義に必ず出席すること。

日本語AⅠ Japanese I

対象学科(コース)：全学科(留学生科目) 学年：1年次

学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 石東 万里子

1. 概要

●授業の目的

日本の社会的・文化的な話題をもとに、読む力、聞く力を向上させると共に、語彙を拡充して、考えたことを適切に表現する力をつける。

●授業の位置付け

中級レベルの日本語能力を定着させるためのものである。大学の講義を理解するための基礎を固める。語彙や文法を予習復習して学んでいく習慣を確立する。

2. キーワード

「日本の社会・文化」「語彙」「会話体」「文法練習」「ディスコース練習」

3. 到達目標

- 読む力、聞く力を向上させる。
- 社会的文化的な話題について語彙を拡充する。
- 考えたこと、感じたことを日本語で表現する力をつける。

4. 授業計画

第1回～第2回	第1課	いちろく銀行
第3回～第4回	第2課	動物園
第5回～第6回	第3課	仮想現実
第7回～第8回	第4課	体の時間
第9回～第10回	第5課	自然
第11回～第12回	第6課	左利き
第13回～第14回	第7課	共生住宅
第15回	総復習	

5. 評価の方法・基準

授業への参加度(20%)、課題(20%)、学期末試験(60%)で評価する。

6. 履修上の注意事項

短期留学生や中級レベルの学生を主な対象者とする。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

毎回課題を出すので、それを元に復習をすること。

8. 教科書・参考書

- 1) 水谷信子：現代日本語中級総合講座(アルク)810.7/M-22

9. オフィスアワー

火曜日3限

日本語 A I Japanese I

対象学科（コース）：全学科（留学生科目） 学年：1 年次
 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1 単位
 担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

さまざまなタイプの文書を書く方法を身につける。メールや説明文、報告書、ミニプレゼンテーションを経て、論文書式でレポートを作成する。

●授業の位置付け

中上級レベルの日本語能力を総合的に養成するためのものである。積極的に資料を使い、自分の考えを組み立て、的確に発信する力を養う。日本社会に対する理解を深める。

2. キーワード

「目的と書き方」「プレゼンテーション」「論文書式」

3. 到達目標

- ・さまざまな文書で、相手に伝わる方法を身につける。
- ・プレゼンテーションの準備方法を学ぶ。
- ・論文書式で事象の説明と自分の考察をまとめる。

4. 授業計画

- 第1回～第2回 メール
- 第3回～第4回 説明文
- 第5回～第6回 資料収集の方法
- 第7回～第8回 アイディアの発表
- 第9回～第10回 プレゼンテーションの準備と発表
- 第11回～第12回 報告書
- 第13回～第14回 論文書式に向けて
- 第15回 総まとめ

5. 評価の方法・基準

授業への参加度・課題（40%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（30%）で評価する。

6. 履修上の注意事項

中上級レベルの学習者を対象とする。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

課題を必ず提出し、準備をきちんとすること。

8. 教科書・参考書

参考書

- 1) 因京子他：日本語表現道場（ピーエフアール）
- 2) 野田尚史他：日本語を書くトレーニング（ひつじ書房）816/N-12

9. オフィスアワー

木曜日 4 限

日本語 A II Japanese II

対象学科（コース）：全学科（留学生科目） 学年：1 年次
 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1 単位
 担当教員名 石東 万里子

1. 概要

●授業の目的

日本の社会的・文化的な話題をもとに、読む力、聞く力を向上させると共に、語彙を拡充して、考えたことを適切に表現する力をつける。また、科学技術に関する読み物への導入を行い、研究室見学を行って、実際の場で日本語を使ってみる。

●授業の位置付け

中級レベルの日本語能力を定着させるためのものである。大学の講義を理解するための基礎を固める。語彙や文法を予習復習して学んでいく習慣を確立する。

2. キーワード

「日本の社会・文化」「語彙」「会話体」「文法練習」「ディスコース練習」

3. 到達目標

- ①読む力、聞く力を向上させる。
- ②社会的文化的な話題について語彙を拡充する。
- ③考えたこと、感じたことを日本語で表現する力をつける。
- ④平易な科学的な読み物を読み、学んだ語彙を使って考えを述べる。

4. 授業計画

- 第1回～第2回 第8課 カラー柔道着
- 第3回～第4回 第9課 料理技能の検定
- 第5回～第6回 第10課 発明王
- 第7回～第8回 第11課 花の洋風化
- 第9回～第10回 第12課 さいせん回数券
- 第11回～第13回 KIT 版科学読み物
- 第14回 研究室見学
- 第15回 総復習

5. 評価の方法・基準

授業への参加度（20%）、課題（20%）、学期末試験（60%）で評価する。

6. 履修上の注意事項

短期留学生や中級レベルの学生を主な対象者とする。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回課題を出すので、それを元に復習をすること。

8. 教科書・参考書

- 1) 水谷信子：現代日本語中級総合講座（アルク）810.7/M-22
- 2) アブドゥハン恭子・石東万里子：九州工業大学留学生のための科学読み物 2008（九州工業大学）

9. オフィスアワー

火曜日 3 限

日本語 A II Japanese II

対象学科（コース）：全学科（留学生科目） 学年：1 年次
 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1 単位
 担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

新聞教材を使った読解を中心に、語彙の拡充、書き言葉の表現、新聞記事特有の表現などを学び、様々な社会問題に対して的確に自分の考えを述べる力を育てる。

●授業の位置付け

漢語を基本に語彙を拡充して日本語の総合力を高める。

2. キーワード

「新聞」「漢語」「読解」「意見の発信」

3. 到達目標

- ①新聞記事や論説文などで使われる漢字の意味と用法を理解し、使用できる。
- ②自分の意見をまとめて、論理的に話すことができる。

4. 授業計画

毎回の授業は、その時々々の生の記事を、様々な新聞から、また新聞の各面から取り上げる。

授業の流れは、読解と言葉の解説、漢字語彙の拡充練習、表現練習、討論、意見のまとめ。適宜、語彙の復習テストを行う。

5. 評価の方法・基準

授業への参加度（30%）、課題（10%）、試験（60%）で評価する。

6. 履修上の注意事項

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回の課題をきちんと提出し、復習を主に心がけること。

8. 教科書・参考書

なし

9. オフィスアワー

木曜日 4 限

日本語 B I Japanese B I

対象学科（コース）：全学科（留学生科目） 学年：1 年次
 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1 単位
 担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

一般向けのテレビの科学番組を聞き取ることで、科学に関する基本的な日本語の知識を確認する。日本語を使って、情報を正確に受信し、自分の考え深め、まとめて発信する。また、本学で研究されているテーマについて下調べをして、研究室見学を行い、実際に情報収集を行う。

●授業の位置付け

科学に関する基本的な語彙を習得し、自分の言葉として使う力を養成する。また、科学技術の生まれた背景、アイデア、その課題などについて考え、論理的に考える力を養う。学部1年生にとって、専門の講義を理解するための基本練習となるだろう。

2. キーワード

「科学技術」「聴解」「大意把握」「語彙拡充」「作文」

3. 到達目標

- ・科学に関する語彙を取得し、説明文の表現に慣れる。
- ・聞き取った内容を的確に把握する。
- ・科学に関する話題に関して自分なりに考え、それを表現できる能力を身に付ける。

4. 授業計画

- 第1回 説明文の表現練習
- 第2回 テーマ：再生木材
- 第3回 テーマ：新エネルギー開発
- 第4回 テーマ：バイオメトリクス認証
- 第5回 テーマ：地球温暖化 島が沈む
- 第6回 テーマ：エコタウン
- 第7回 テーマ：有毒アオコ
- 第8回 テーマ：人工光合成
- 第9回 テーマ：メタンハイドレート
- 第10回 テーマ：ロボットカー
- 第11回 テーマ：スペースデブリ
- 第12回 研究室見学
- 第13回 テーマ：にょいの不思議
- 第14回 テーマ：新型風車
- 第15回 総まとめ

5. 評価の方法・基準

授業への参加度（20%）、毎回の作文（30%）、試験（50%）

6. 履修上の注意事項

編入留学生が日本語を履修する場合は、できるだけこの講義を受講して欲しい。

日頃から辞書を使って知らない言葉を積極的に調べて身に付ける習慣をつけること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

課題を毎回提出し、身につけたい用語を各自書き出してリストを作成すること。

8. 教科書・参考書

アブドゥハン恭子・石東万里子：九州工業大学留学生のための科学読み物 2008（九州工業大学）

9. オフィスアワー

木曜日 4 限

日本語 B II Japanese B II

対象学科(コース)：全学科(留学生科目) 学年：1 年次
 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1 単位
 担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

一般向けのテレビの科学番組を聞き取ることで、科学に関する基本的な日本語の知識を確認する。日本語を使って、情報を正確に受信し、自分の考え深め、まとめて発信する。また、本学で研究されているテーマについて下調べをして、研究室見学を行い、実際に情報収集を行う。

●授業の位置付け

科学に関する基本的な語彙を習得し、自分の言葉として使う力を養成する。また、科学技術の生まれた背景、アイデア、その課題などについて考え、論理的に考える力を養う。学部1年生にとって、専門の講義を理解するための基本練習となるだろう。

2. キーワード

「科学技術」「聴解」「大意把握」「語彙拡充」「作文」

3. 到達目標

- ・科学に関する語彙を取得し、説明文の表現に慣れる。
- ・聞き取った内容を的確に把握する。
- ・科学に関する話題に関して自分なりに考え、それを表現できる能力を身に付ける。

4. 授業計画

- 第1回 テーマ：スペースシャトル事故
- 第2回 テーマ：折り紙工学
- 第3回 テーマ：自動車エンジン開発
- 第4回 テーマ：巨大津波のメカニズム
- 第5回 テーマ：東京大地震
- 第6回 テーマ：人工筋肉
- 第7回 テーマ：ペットボトルリサイクル
- 第8回 テーマ：災害レスキューロボット
- 第9回 テーマ：磁石研究とエコカー
- 第10回 テーマ：バイオミメティクス
- 第11回 テーマ：熱電発電
- 第12回 テーマ：砂漠で発電
- 第13回 テーマ：スペースデブリ
- 第14回 研究室見学
- 第15回 総まとめ

5. 評価の方法・基準

授業への参加度(20%)、毎回の作文・課題(30%)、試験(50%)

6. 履修上の注意事項

編入留学生が日本語を履修する場合は、できるだけこの講義を受講して欲しい。

日頃から辞書を使って知らない言葉を積極的に調べて身に付ける習慣をつけること。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

課題を毎回提出し、身につけたい用語を各自書き出してリストを作成すること。

8. 教科書・参考書

アブドゥハン恭子・石東万里子：九州工業大学留学生のための科学読み物 2008(九州工業大学)

9. オフィスアワー

木曜日 4 限

日本語 C I Japanese C I

対象学科(コース)：全学科(留学生科目) 学年：2 年次
 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1 単位
 担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

様々な話題に応じた語彙や表現を学び、自分に興味のあることを詳しく説明できる力を育てる。

●授業の位置付け

会話やスピーチなど、中上級話者の話す能力を養う。

2. キーワード

「会話」「スピーチ」「説明」「興味をもってもらう」

3. 到達目標

- ①詳しい説明や描写ができる。
- ②聞き手の興味や理解を確かめながら話せる。
- ③共に話を展開させる聞き方を身につける。
- ④メモをもとにスピーチができる。

4. 授業計画

- 第1回 インタビューと他者紹介
- 第2回 前回のフィードバック：話し方を考える
- 第3回 きっかけを語る
- 第4回 方法説明のスピーチ
- 第5回 失くした体験
- 第6回 図の分析
- 第7回 性格を分析する
- 第8回 うごきの説明
- 第9回 健康・ストレス解消法
- 第10回 物語の説明(1)
- 第11回 物語の説明(2)
- 第12回 ゲームの説明
- 第13回 最近の出来事
- 第14回 将来の夢
- 第15回 日本の文化に慣れるとは

5. 評価の方法・基準

授業への参加度(30%)、授業内での発表(30%)、説明方法のスピーチ(40%)で評価する。

6. 履修上の注意事項

毎回の授業で得た手がかりを基に、共に会話を深めることができる話し手、聞き手となるよう心がけること。自分の話し方を内省し、課題を克服する努力をすること。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

毎回小課題を出すので、それを元に復習をすること。

8. 教科書・参考書

●教科書

1) 萩原稚佳子他：日本語上級話者への道(スリーエーネットワーク) 810.7/O-22

9. オフィスアワー

木曜日 4 限

日本語 C II Japanese C II

対象学科（コース）：全学科（留学生科目） 学年：2 年次

学期：後期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

各自の日本語能力を総合的に評価して、不十分な点を自覚し、それをどのようにして獲得していったらよいか、自分なりの学習方法を確立することを目的とする。

●授業の位置付け

日本語学習のまとめとして自律的に学習する態度を確立する。具体的には、日本語能力試験 N 1 の問題を客観的な指標の一つとして参考にしながら、自分の日本語能力を測る。小レポートを書いて、それを推敲してプレゼンテーションに発展させる。

2. キーワード

「自己評価」「自律的学習」「日本語能力試験 N 1」

3. 到達目標

- ①自分の日本語能力を客観的に評価できる。
- ②不十分な技能を磨くための学習方法を知る。
- ③自律的に日本語を学ぶ態度を身に付ける。
- ④説得力のあるプレゼンテーションができる。

4. 授業計画

- 第1回 イントロダクション：自己評価とは
 第2回 自分の力を知る：語彙の広さ、量
 第3回 前回のフィードバック、練習
 第4回 自分の力を知る：文法的な正確さ
 第5回 前回のフィードバック、文法の正確さのための練習
 第6回 自分の力を知る：主旨や発話者の意図を理解する力
 第7回 前回のフィードバック、練習
 第8回 自分の力を知る：論理的に話を組み立てる力
 第9回 前回のフィードバック、練習
 第10回 自分の力を知る：表現力・説得力
 第11回 前回のフィードバック、練習
 第12回 プレゼンテーションに向けて（1）構成
 第13回 プレゼンテーションに向けて（2）説得力
 第14回 プレゼンテーションに向けて（3）練習
 第15回 プレゼンテーション

5. 評価の方法・基準

授業への参加度・課題（50%）、プレゼンテーション（50%）で評価する。

6. 履修上の注意事項

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回の課題をきちんと提出し、復習を主に心がけること。

8. 教科書・参考書

特になし

9. オフィスアワー

木曜日 4 限

日本事情 A Japanese Culture and Society A

対象学科（コース）：全学科（留学生科目） 学年：1 年次

学期：前期 単位区分：選択 単位数：2 単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

日本の社会や文化に関する知見を広め、考えを深める。日本を自らの出身地や他の地域と比較して、日本の事情について様々な視野から考察する。

異なる背景を持つ人と意見を出し合って協働するための行動力を身につける。

●授業の位置付け

日本社会における様々な事象を多角的に捉え、理論的かつ客観的に分析し、自らの意見を日本語で述べる。また、他の参加者の意見にも耳を傾け、話し合いに参加する姿勢を育てる。

2. キーワード

「日本社会」「文化」「討論」「異文化理解」

3. 到達目標

- ①相手の理解を確かめながら話す
- ②背景の異なる相手に積極的に自己開示する力を持つ
- ③異なる文化、社会について理解する視点を持つ
- ④日本の社会や文化について考えを深める
- ⑤グループで協働して調査、発表する姿勢を獲得する

4. 授業計画

学生自身が興味のある話題を取り上げ、皆で討議する問題を提起する。討議のための資料を作成し、皆に討議資料を説明する。グループで意見を出し合い、発表する。自分の意見をまとめ、振り返る。

- 第1回 アイスブレイキング
 第2～4回 文化と生活
 第5～7回 教育と社会
 第8～9回 大学生活
 第10～11回 社会の課題
 第12～14回 日本社会再考
 第15回 試験

5. 評価の方法・基準

発題と資料作成（20%）、毎回のノート（30%）、試験（20%）、討論への参加度（30%）で評価する。

6. 履修上の注意事項

積極的に自己を振り返り、意見を出すこと、他人の考えを深く知る姿勢を持つこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

テーマについての事前の課題を考えて授業に臨む。

8. 教科書・参考書

●教科書 特に指定しない

9. オフィスアワー

月曜日 3 限

日本事情 B Japanese Culture and Society B

対象学科（コース）：全学科（留学生科目） 学年：1 年次

学期：後期 単位区分：選択 単位数：2 単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

日本の社会や文化に関する知見を広め、考えを深める。日本を自らの出身地や他の地域と比較して、日本の事情について様々な視野から考察する。

●授業の位置付け

日本社会における様々な事象を多角的に捉え、理論的かつ客観的に分析し、自らの意見を日本語で述べる。また、他の参加者の意見にも耳を傾け、話し合いに参加する姿勢を育てる。

2. キーワード

「日本社会」「文化」「討論」「異文化理解」

3. 到達目標

- ①日本社会や文化について外国人にも分かるように説明する。
- ②討議に積極的に参加して考えを深める。
- ③異なる文化、社会について理解する。
- ④日本の文化、社会について各国との比較を交えて、まとまりのある文章を書く。

4. 授業計画

- | | |
|---------|------------------|
| 第1回 | アイスブレイキング：国のイメージ |
| 第2～3回 | 生活 |
| 第4～5回 | 少子高齢社会 |
| 第6～7回 | 教育 |
| 第8～9回 | 企業と労働 |
| 第10～11回 | 科学技術と人間 |
| 第12～13回 | 自然と人間 |
| 第14回 | アジアの未来 |
| 第15回 | まとめ |

5. 評価の方法・基準

レポート(60%)及び毎回提出のノート・授業への参加度(40%)で評価する。

6. 履修上の注意事項

前の週に配布する資料をよく読んで授業に臨むこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

前の週に配布する資料をよく読んで授業に臨むこと。

8. 教科書・参考書

●教科書 特に指定しない

●参考書

- 1) 留学生のための時代を読み解く上級日本語 第2版（スリーエーネットワーク）810.7/M-41/2

9. オフィスアワー

月曜日3限

日本事情 C Japanese Culture and Society C

対象学科（コース）：全学科（留学生科目） 学年：2 年次

学期：前期 単位区分：選択 単位数：2 単位

担当教員名 石川 朋子

1. 概要

●授業の目的

日本の地理・歴史・政治・経済などを概観することによって、日本という国の全体像をとらえる。

●授業の位置付け

日本人が中学・高校の「社会科」で学習する内容をごく簡単に紹介する。また受講者は、自国について各回のテーマに沿った内容で輪番で発表を行う。

2. キーワード

「日本史」「日本地理」「政治・経済」

3. 到達目標

これから社会人として日本という国と関わりを持っていく上で必要な、「常識」とされる知識を身につける。

4. 授業計画

- | | |
|------|------------|
| 第1回 | データでみる日本 |
| 第2回 | 日本の地理・気候 |
| 第3回 | 憲法 |
| 第4回 | 政治制度 |
| 第5回 | 選挙と世論 |
| 第6回 | 戦後経済史 |
| 第7回 | 消費者をめぐる問題 |
| 第8回 | 労働問題と社会保障 |
| 第9回 | 宗教 |
| 第10回 | 日本の歴史（1） |
| 第11回 | 日本の歴史（2） |
| 第12回 | 現代日本社会の諸問題 |
| 第13回 | 北九州の地理と歴史 |
| 第14回 | ポスター作成 |
| 第15回 | 総まとめ討論会 |

5. 評価の方法・基準

授業の途中で課す小レポート（50%）、発表（20%）、授業への参加度（30%）で評価する。

6. 履修上の注意事項

図書館3階の日本語学習書コーナーに参考となる本があるので、自分に合う本を探して学習すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業を振り返り、新たに得た知識をレポートにまとめ毎回提出すること。

8. 教科書・参考書

特に指定しない

9. オフィスアワー

アブドゥハン教員を通して質問すること

日本事情D Japanese Culture and Society D

対象学科（コース）：全学科（留学生科目） 学年：2年次

学期：後期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 石川 朋子

1. 概要

●授業の目的

日本社会におけるコミュニケーションで、人間関係を調節するためにどのような表現が使われているかを、さまざまな例（会話、手紙文など）を通して観察・考察する。

●授業の位置付け

ある状況で、どんな表現が選択されるかは、文化によって違いがある。日本語において適切とされる表現の観察を通じて、日本文化・日本社会に対する理解を促進する。

2. キーワード

「日本社会」「人間関係」「待遇表現」

3. 到達目標

- ・丁寧な表現とくだけた表現がどのように使い分けられるかを理解する。
- ・「たのむ」「ことわる」「苦情をいう」などといった、人間関係を悪くするかもしれない場面で用いられる表現について知るとともに、その背景にある日本文化についての理解を深める。

4. 授業計画

- 第1回 人間関係を調節する表現についての概論
- 第2－4回 さまざまな表現と使い方
- 第5－7回 頼むとき・頼まれたとき
- 第8－10回 苦情を言うとき・言われたとき
- 第11回 意見を述べる
- 第12回 感謝・謝罪
- 第13回 ほめる・ほめられる
- 第14回 母国文化についてのまとめ作成
- 第15回 総まとめ発表会

5. 評価の方法・基準

授業の途中で課す小レポート（70%）と授業への参加度（30%）で評価する。

6. 履修上の注意事項

図書館3階の日本語学習書コーナーに参考となる本があるので、自分に合う本を探して学習すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業終了時に示す課題についてレポートを作成し提出すること。

8. 教科書・参考書

- 教科書 特に指定しない

9. オフィスアワー

アプドゥハン教員を通して質問すること